

第6学年 国語科学習指導案

平成24年1月 30日(月) 第5校時
2月 1日(水) 第3校時
東京学芸大学附属小金井小学校 6年3組37名
授業者 三浦 尚介 印略

1. 単元名 ニュースを読み解こう「ニュースを比べよう」

2. 単元の目標

〈教科の目標〉

- メディアについて理解するために、すすんで資料を読んだり友達と話し合ったりする。(関心意欲態度)
- 自分と友達の考えを比べながら話し合うことができる。(話すこと・聞くこと)
- 読み取った情報を自分なりに整理して書くことができる。(書くこと)
- 相手の意図をとらえながら情報を読み、それに対する自分の考えを持つことができる。(読むこと)

〈メディアリテラシーの目標〉

- ニュース番組を読み解くことにより、メディアの持つ特徴を理解し、作り手の意図をとらえながら、自分自身の考えで情報を判断する力を身につける。
- 番組作りには制作者の意図があり、その意図を効果的に伝えるために編集されていることに気がつく。

3. 単元について

①メディアリテラシーの学習として

今日のような「情報社会」とよばれる時代を生きる子どもたちは、日常的に多くの情報に囲まれて生活している。様々なメディアから発信される情報は、子供たちの必要の有無にかかわらず速いスピードで通り過ぎていく。そのため普段の生活の中では、情報の内容を特に気に留めることもなく受動的な受け止め方をしていることが多い。反面、メディアは大切な情報源でもあり、今や子供たちにとってメディアなしの生活は考えられないものになっているのも事実である。子供たちはメディアから得られた情報を信じ、情報そのものが作り手の位置付けや考え方で変化しているという事実をあまり認識していない。そのため、調べ学習を行っても、本やインターネットからほんのわずかな情報を得ただけで満足してしまい、一部の情報を鵜呑みにしてしまう傾向にある。

そこで本単元では子供たちが大きな信頼を寄せているテレビのニュース番組に焦点を当て、どのようなメディアでも「現在提供されている情報は、作り手の加工品であり、ニュースそのものが作り手の位置付けや考え方で変化していること」「ニュースは実際の事象のある側面しか写していないことがあること」を実感させ、作り手の意図をとらえながら、自分自身の考えで情報を判断する力を育てたいと考えた。

②国語科学習として

本単元では読み解く題材として、架空の事件の当事者のインタビューとそれを編集したニュース番組を用いている。映像や音楽の効果との組み合わせなどやや発展的な内容が絡むが、「話し手の意図をとらえながら聞くこと」「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」という情報の受け手としての姿勢は、媒介が本であろうとテレビであろうとインターネットであろうと本質は変わらない。

また、情報の作り手としての活動も学習に組み込まれている。放送局は情報の作り手として、考えたことや伝えたいことなどから話題を集め、収集した知識や情報を関連付け、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫している。これは、学習指導要領に示されている、「話すこと・聞くこと」の話すこと内容と同じであり、放送局が行っていることと児童がこれまで学習してきたことの本質は大きく変わらない。しかし、児童は放送局が自分たちと同じようにして情報を作っているという実感が欠落しており、そこから「ニュース番組＝現実の全て」という誤解が生じている。放送局の立場に立って情報を作る体験をすることは、その誤解を解消し、自分自身の考えで情報を判断する力を身につけることにつながると考えられる。

③本単元と学習指導要領

本単元は、学習指導要領国語目標（１）（２）、内容「A」「B」「C」を受けて設定した。国語科の学習指導要領には次のようにメディアリテラシー関わるような内容が多く示されている。

○別添資料 第２節 国語科の内容 ２各領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容

○学習指導要領の「読むこと」の言語活動例「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと」

○学習指導要領の関連的な指導と学校図書館などの活用に関する事項「情報収集や情報発信の手段としてコンピューターや情報通信ネットワークを活用する機会を設けること、インターネットや電子辞書の活用、コンピューターによる発表資料の作成とプロジェクターによる提示なども考えられる」

④本単元における視聴覚教材「親子で語ろう テレビの見方」の活用

本教材には３つの放送局によるニュース番組が納められているが、共通して山下正、山下清子という二人の人物が登場する。この二人は共に熊出没事件の関係者として登場するが、比較してみるとそれぞれの番組で言っていることも受ける印象もかなり異なり、矛盾しているように感じる。これは放送局によってインタビューが編集された結果であるが、ニュース番組が作り手の考えや意図を反映しているということを色濃く表している分かりやすい事例である。編集によって一人の人物の話したことや性格まで異なった印象で伝わってくるという事実は児童にとって大変な驚きであり、メディアの特長を効果的に実感することができる。

4. 学習指導計画（全2時間扱い）

時	○学習のねらい・主な活動
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 山奥県の奥山村で「熊が出没」したという架空の事件の第一報から、どんなことを連想するか話し合う。 2. 事件について詳しく知るためには、どんな方法があるか話し合う。 3. 山下正さんと山下清子さんのインタビューを読む。 4. インタビューを元に山下正さんと山下清子さんの伝えたかったことについて話し合う。 5. 山下正さん、清子さんの伝えようとしていたことについてワークシートにまとめる。 6. 書いた内容をいくつか発表する。
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時の学習を振り返る。 2. 「3つのニュース番組」を視聴し、感想や受けた印象について話し合う。 3. それぞれ番組で二人が言っていることや印象についてまとめる。 4. どの番組が正しいのか、正さんや清子さんがなぜ言っていることが違うのかその理由について話し合う。 5. DVD「親子で語ろう テレビの見方」を視聴する 6. 感想や考えたことについて話し合う。

5. 授業細案（1 / 2）

（1）ねらい

- インタビューの内容から、事件の詳細や二人の伝えたいことについて自分なりにまとめられる。
- 取材の進め方や記事のまとめ方について知る。

（2）本時の展開

主な学習活動・予想される児童の反応	○留意点 ※評価
<p>1. 山奥県の奥山村で「熊が出没」したという架空の事件の第一報から、どんなことを連想するか話し合う。</p> <p>2. 事件について詳しく知るためには、どんな方法があるか話し合う。</p> <p>○これまでの経験を元に取材の方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去の資料を調べる。 ・現地に行く。 ・事件の被害者に話を聞く。 	<p>○自由に想像させた後、それらの想像には確証がなく憶測に過ぎないということを押さえる。</p> <p>○メディアを活用して情報を収集するだけではなく、記者と同じように取材もしなければならないという状況であることを確認する。</p> <p>※取材の方法について考えている。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">熊出沒事件について詳しく取材しよう</div>	
<p>3. 山下正さんと山下清子さんのインタビューを読む。</p> <p>○黙読をする。</p> <p>○全員で音読をする。</p> <p>○二人の人物像や人柄を想像し、声色等を考えて音読する。</p> <p>4. 山下正さん、清子さんの伝えようとしていたことについてワークシートにまとめる。</p> <p>5. インタビューを元に山下正さんと山下清子さんの伝えなかったことについて発表する。</p> <p>○山下正さんについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊の行動について ・被害について <p>○山下清子さんについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊が現れたときについて ・保険について ・恐ろしくて外に出られない 	<p>○二人の顔写真を提示する。</p> <p>○役割を割り振りロールプレイをさせることで、二人の人物像をにせまる。何組か選び実演させる。</p> <p>○3の学習から、「熊出沒」に対して二人がどのような思いを抱き、何を伝えようとしていたのか自分なりに考えるよう促す。</p> <p>○二人の行っている内容について羅列していき、その後どれを主として伝えなかったのか考えさせる。</p> <p>※二人の話の内容を吟味し、事件の詳細や主として伝えなかったことを読み取ろうとしている。</p>

5. 授業細案・本時（2 / 2）

（1）ねらい

- 発信者が異なると、情報の切り取り方が違うことに気がつく。
- 自分自身の考えで情報を判断していこうとする気持ちを高める。

（2）本時の展開

主な学習活動・予想される児童の反応	○留意点 ☆テーマとの関連 ※評価
<p>1. 前時の学習を振り返る。</p> <p>2. 「3つのニュース番組」を視聴し、それぞれの番組の印象について話し合う。</p> <p>○自分たちが考えたものと比較してどうであったか。</p> <p>○インタビューを受けた二人はどう感じただろうか。</p>	<p>○前時のインタビューを元にニュース番組が作られたことを伝える。</p> <p>○番組の内容を十分に読み取りらせるために、原稿を配布する。</p> <p>○前時自分たちが考えた二人の伝えたいことと、ニュースの番組を比較して考えさせる。</p> <p>※番組によって二人の言っていることや、受ける印象が異なることに気がつく。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">3つのニュースを比べよう</div>	
<p>3. なぜ番組によって言っていることが違うのか、どの番組が今回の事件に相応しいか自分の考えを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューを受けたタイミングが違う。 ・作った人が違うから。 ・どの番組が正しいの。 ・Aが正しい ・Bが正しい ・Cが正しい ・伝えたいことが違うから・・・ <p>4. 3つのニュース番組それぞれの伝えたいことについて、簡単にまとめる。</p> <p>○ワークシートにそれぞれの番組が主として伝えなかったことをまとめる。</p> <p>5. 感想や考えたことについて話し合う。</p> <p>○今後のニュース番組の見方について</p> <p>○普段の生活を振り返って</p>	<p>○番組の原稿やインタビューの内容のプリントを手がかりにするように促す。</p> <p>○どの番組が自分の考えに近いかわかりやすく、話し合いを活性化させる。</p> <p>※なぜ内容が異なるか、放送局や記者の立場に立って考えられたか。</p> <p>○ワークシートを活用する。</p> <p>○実際のニュースでも自分の話したことと、放送された内容が異なってしまうことがあることを体験談を交えて押さえる。</p>